



2024年3月期第2四半期 決算説明会

東京製綱株式会社

Nov. 13, 2023

1. 24年3月期第2四半期決算・通期予想概要
2. セグメント情報
3. 中期経営計画の進捗

1. 24年3月期第2四半期決算・通期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

1-1. 2024年3月期第2四半期 決算数値概要

	23年3月期2Q		24年3月期2Q		前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	増減比(%)
売上高	32,214	—	30,578	—	▲ 1,636	▲ 5.1%
営業利益	1,212	3.8%	1,184	3.9%	▲ 28	▲ 2.3%
経常利益	1,645	5.1%	1,437	4.7%	▲ 208	▲ 12.6%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	1,222	3.8%	1,017	3.3%	▲ 205	▲ 16.8%
D/Eレシオ	0.94		0.75		改善	

1-2. 2024年3月期第2四半期 PLのポイント

電力・諸資材等の高騰を受けた価格転嫁の発現も、開発製品の売上減により減収減益。だが、当社上期の進捗率は利益ベースで例年35%程度であり、例年並みで進捗。

売上高	<u>305億円</u> (前期比▲5.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 鋼索鋼線では電力・諸資材等の高騰を受けた価格転嫁により売上増も、開発製品(国内防災)の好調だった23年3月期からの反動減の影響が大きく減収。
営業利益	<u>11億円</u> (前期比▲2.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 鋼索鋼線およびスチールコードでは価格転嫁によるマージン改善効果が発現も、開発製品(国内防災)の減収影響が大きく減益。
経常利益	<u>14億円</u> (前期比▲12.6%)	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益との差額約3億円は、持分法投資利益1.6億円、受取配当金1.5億円等。
親会社株主に帰属する 当期純利益	<u>10億円</u> (前期比▲16.8%)	<ul style="list-style-type: none"> 上記理由により前年同期比で約2億円減少も上期10億円超の黒字を確保。

1-3. 2024年3月期第2四半期 BSのポイント

財務体質改善進む(D/Eレシオ:0.75)、自己資本の有効活用は今後も検討

(単位:百万円)	前期末 (23年3月末)	当第2四半期末 (23年9月末)	摘要
有利子負債	25,614	24,939	借入金の返済(6.7億円)を実施。
自己資本	31,042	33,259	当期純利益(10億円)に加え、円安による海外投資先の為替換算影響(9.5億円)あり。
D/Eレシオ	0.83	0.75	期間利益の積上げにより、改善が継続。

1-4. 2024年3月期第2四半期 CFのポイント

政策保有株の売却影響が大きく、現預金残高は増加

(単位:百万円)	前年同期 (23年3月期2Q)	当期 (24年3月期2Q)	摘要
営業CF	465	2,200	売上債権の減少影響あり。
投資CF	▲ 1,158	314	政策保有株を一部売却(11億円)。
フリーCF	▲ 693	2,514	
財務CF	875	▲ 1,396	借入金返済(6.7億円)、配当実施。
その他	321	479	外貨建て現預金の換算差。
期末残高	4,929	7,329	余剰分は下期運転資金として活用。

1-5. 2024年3月期 通期予想

スチールコード製品の販売減あるも、電力・諸資材等の高騰を受けた価格転嫁による適正マージンの確保および高付加価値品の販売増により増益を見込む。

	23年3月期(実績)		24年3月期(予想)		前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	増減比(%)
売上高	67,135	—	68,000	—	+ 865	+ 1.3%
営業利益	3,305	4.9%	3,600	5.3%	+ 295	+ 8.9%
経常利益	3,653	5.4%	3,700	5.4%	+ 47	+ 1.3%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	3,783	5.6%	2,700	4.0%	▲ 1,083	▲ 28.6%
(参考)為替レート	期末:133円/USD (海外子会社は決算期12月)		想定:145円/USD		—	

1-6. 2024年3月期末 配当方針

- 24年3月期の配当は、前述の業績予想を前提に、一株当たり40円を予定しております。

	23年3月期実績	24年3月期(予想)
配当(年度当たり)	35円/株	40円/株
配当性向(連結)	14.9%	23.8%
(参考)総還元性向(連結)	20.6%	—

海外情勢や各相場の急激な変動等、引き続き不透明な状況が続いており、今後の業績によっては見直しとなる場合があります。

1. 24年3月期第2四半期決算・通期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

2-1. セグメント別売上高と営業利益(前年同期比較)

(単位:百万円)	23年3月期2Q(実績)		24年3月期2Q(実績)		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線関連事業	13,195	995	14,146	1,304	+ 951	+ 309
スチールコード 関連事業	4,700	▲ 470	4,127	▲ 233	▲ 573	+ 237
開発製品関連事業	8,763	315	7,401	▲ 177	▲ 1,362	▲ 492
産業機械関連事業	2,050	160	1,948	115	▲ 102	▲ 45
エネルギー不動産 関連事業	3,503	212	2,954	177	▲ 549	▲ 35
合計	32,214	1,212	30,578	1,184	▲ 1,636	▲ 28

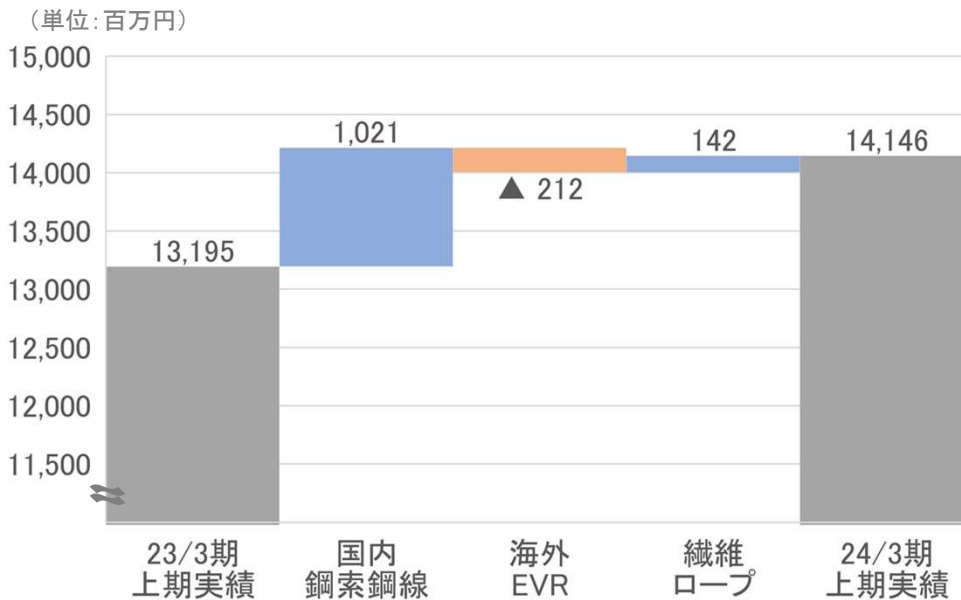
2-1. セグメント別売上高と営業利益(実績と予想の比較)

(単位:百万円)	23年3月期(実績)		24年3月期(予想)		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線関連事業	27,156	2,005	28,600	2,200	+ 1,444	+ 195
スチールコード 関連事業	9,341	▲ 849	8,000	▲ 300	▲ 1,341	+ 549
開発製品関連事業	19,173	1,289	19,500	900	+ 327	▲ 389
産業機械関連事業	4,055	352	4,200	350	+ 145	▲ 2
エネルギー不動産 関連事業	7,408	507	7,700	450	+ 292	▲ 57
合計	67,135	3,305	68,000	3,600	+ 865	+ 295

2-2. 鋼索鋼線関連事業概況(売上高)

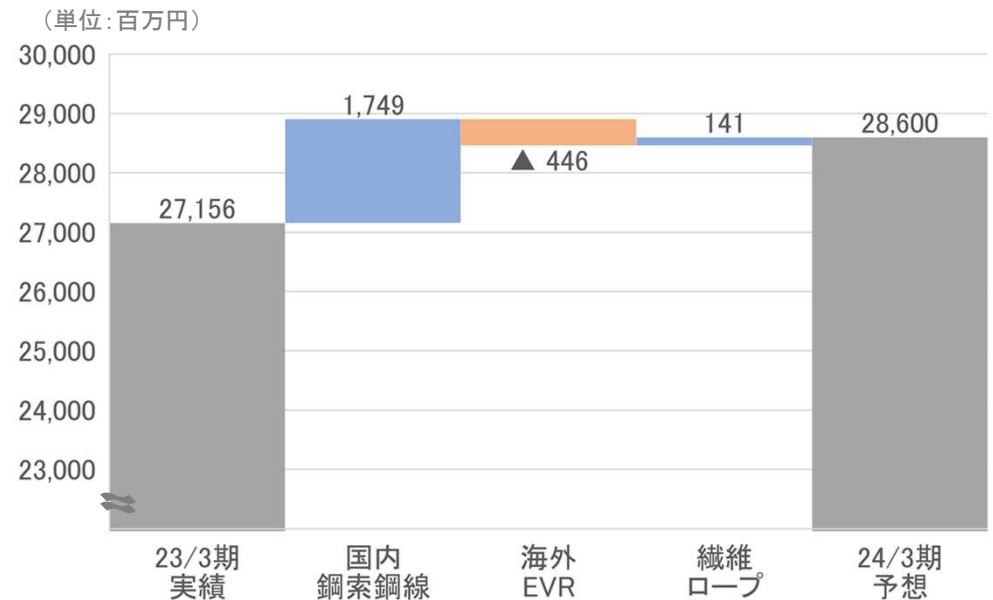
上期

- 国内鋼索鋼線は、電力・諸資材等の高騰を受けた価格転嫁により増収。
- 海外EVRは、海外の景気減退の影響を受け減収。



通期(予想)

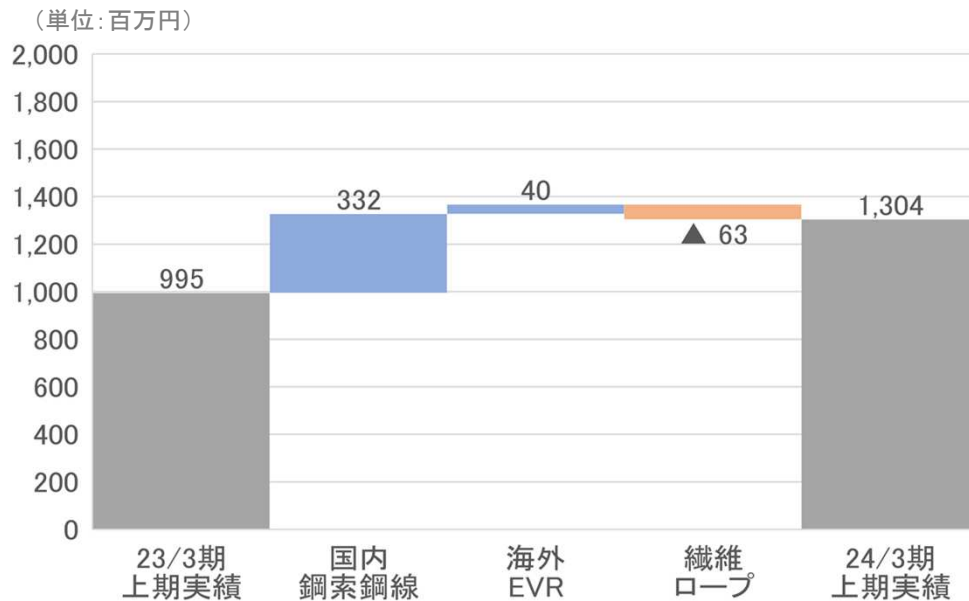
- 上期の状況が継続すると見込む。



2-2. 鋼索鋼線関連事業概況(営業利益)

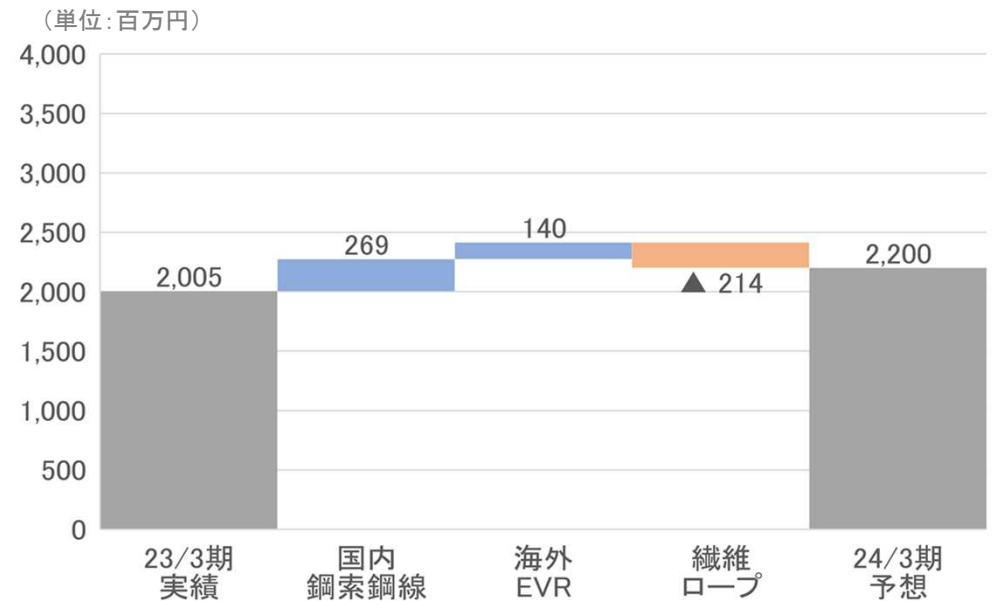
上期

- 国内鋼索鋼線は、価格転嫁によるマージン改善および高付加価値品の増加。
- 繊維ロープは、23年3月期にあった高付加価値品の剥落影響あり。



通期(予想)

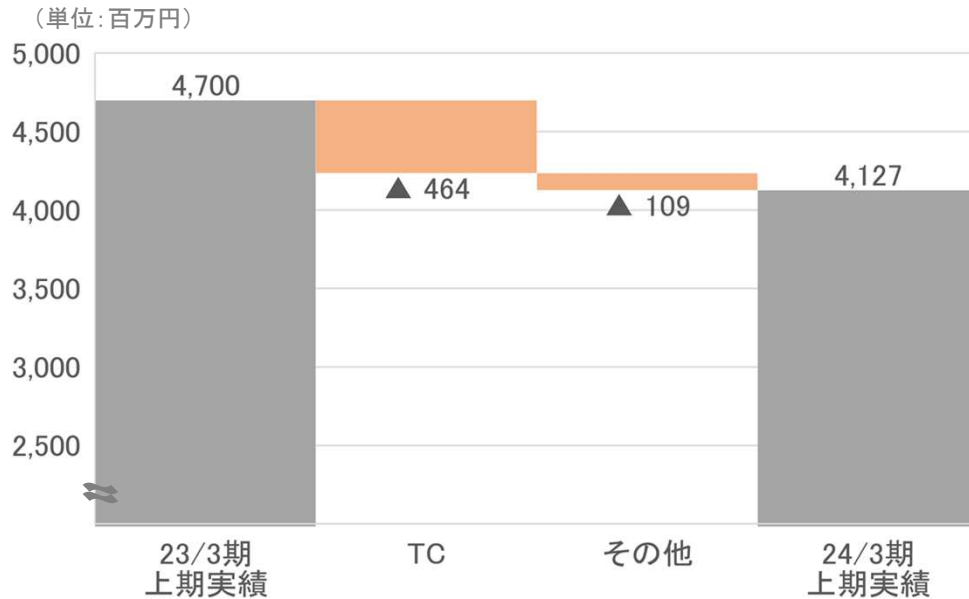
- 国内鋼索鋼線および繊維ロープは、上期の状況の継続を見込む。
- 海外EVRは、採算性の改善により増益を見込む。



2-3. スチールコード関連事業概況(売上高)

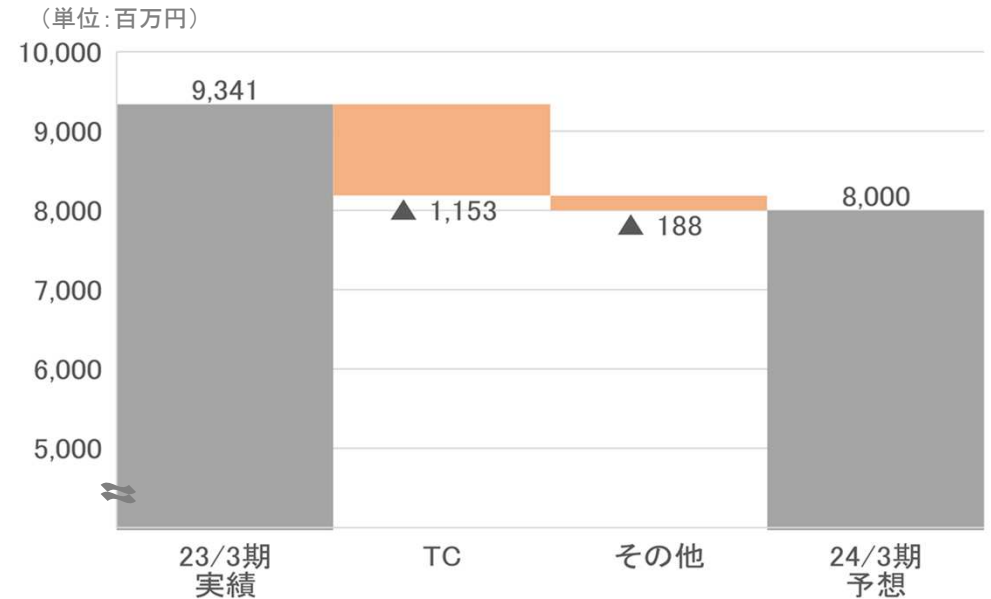
上期

- 北米でのタイヤ販売が引き続き低調に推移している等の影響を受け、売上数量減となり減収。



通期(予想)

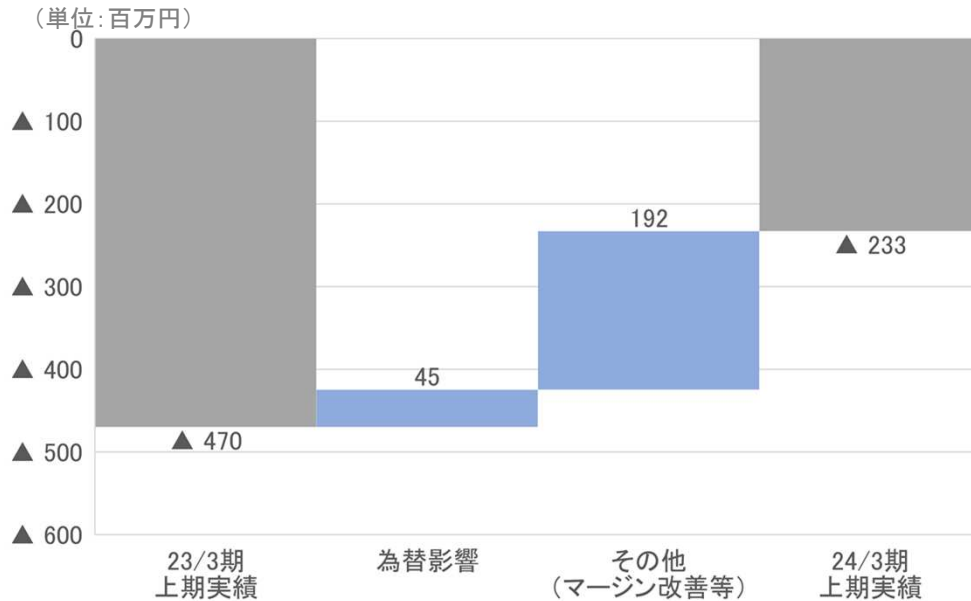
- 上期の状況が継続すると見込むことに加え、電力・諸資材等の価格高騰を受けた価格転嫁の影響による数量減を見込む。



2-3. スチールコード関連事業概況(営業利益)

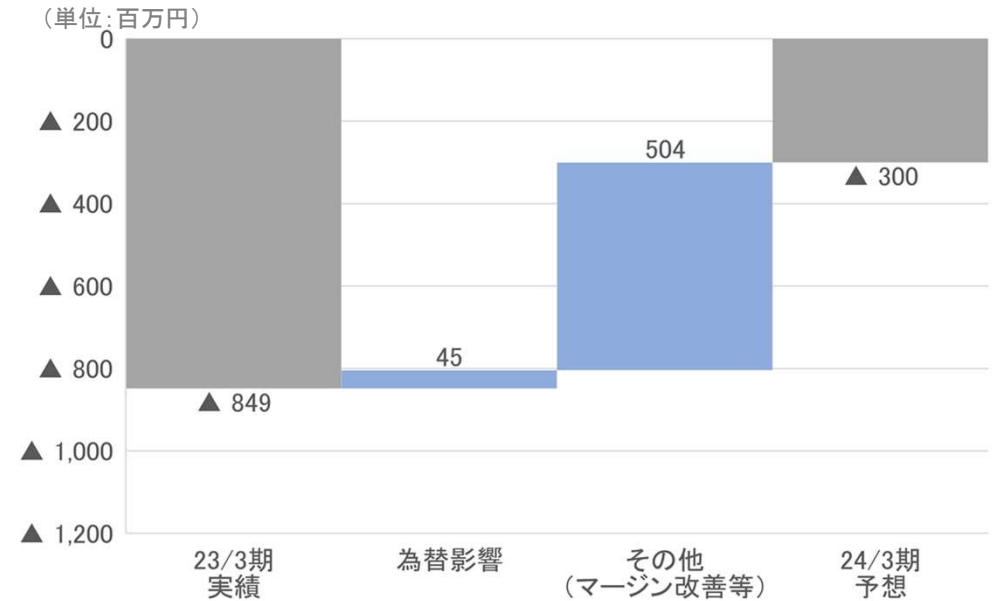
上期

- 電力・諸資材等の高騰を受けた価格転嫁を実施し、マージンが改善。



通期(予想)

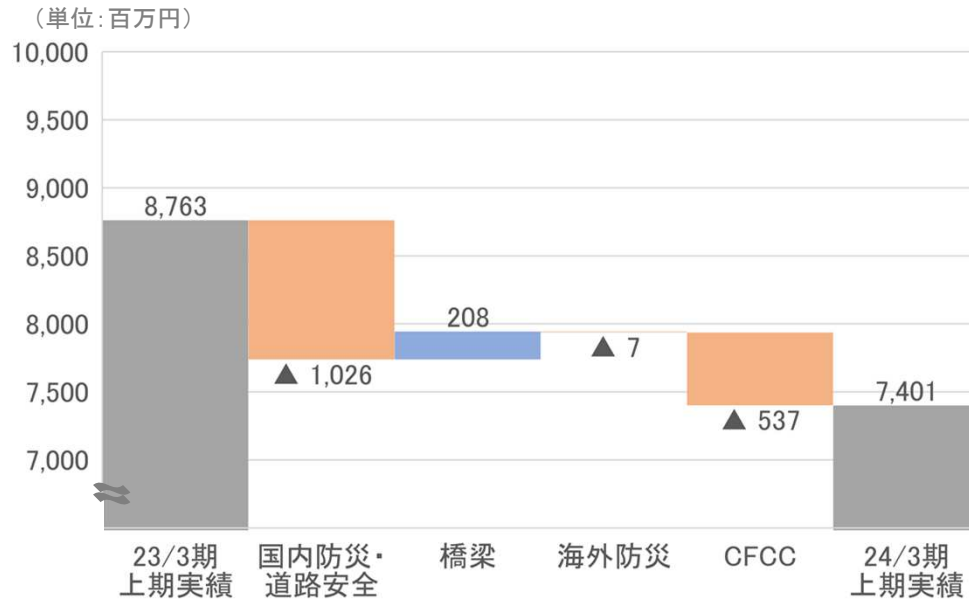
- 中計未達の予想も、過年度投入設備の本格稼働等のコスト低減策などの、利益率の改善に向けた取り組みを継続する。
- 第4四半期での黒字化を見込む。



2-4. 開発製品関連事業概況(売上高)

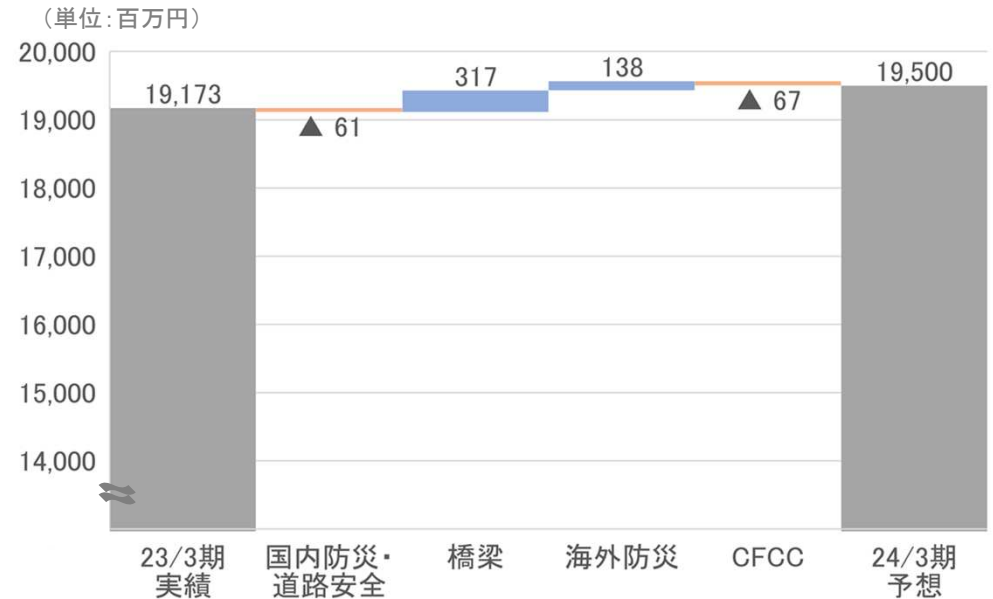
上期

- 国内防災は、23年3月期からの反動減および発注遅れの影響が大きく減収。
- CFCCは、大型案件の工期調整影響あり。



通期(予想)

- 国内防災は、下期の需要増によりほぼ横ばいを見込む。
- 海外防災は、フィリピンを中心にアジア向け受注増により増収を見込む。



2-4. 開発製品関連事業概況(営業利益)

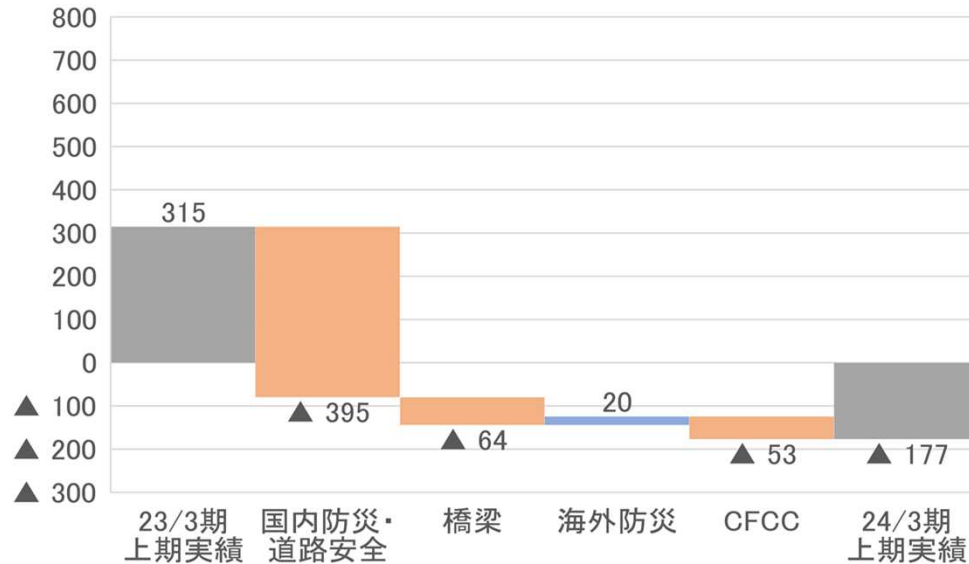
上期

- 国内防災は、23年3月期にあった高付加価値品の剥落影響あり。
- CFCCは、工期調整に伴う売上減により減益。

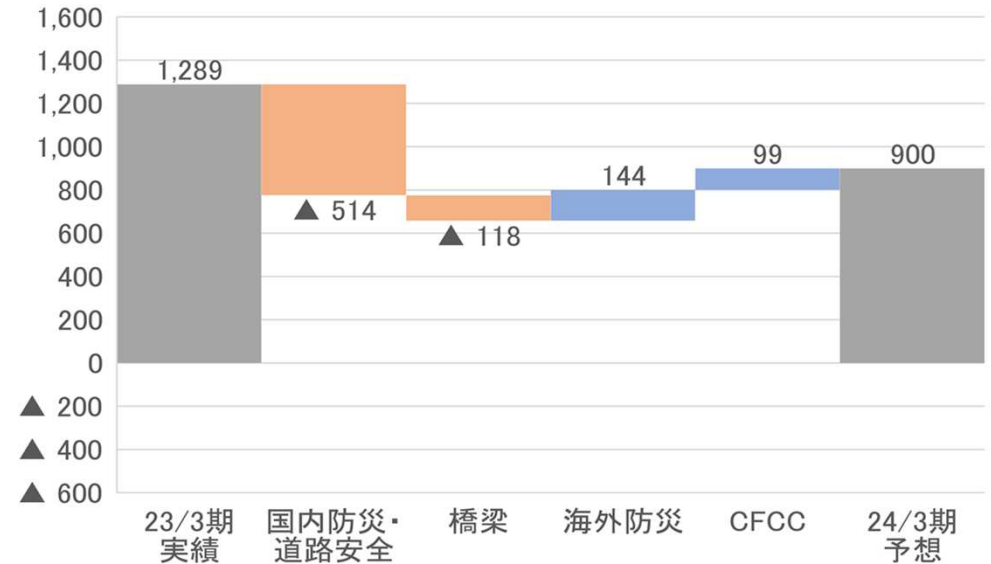
通期(予想)

- 国内防災は、上期の状況の継続を見込む。
- CFCCは、国内工場における操業改善により増益を見込む。

(単位:百万円)



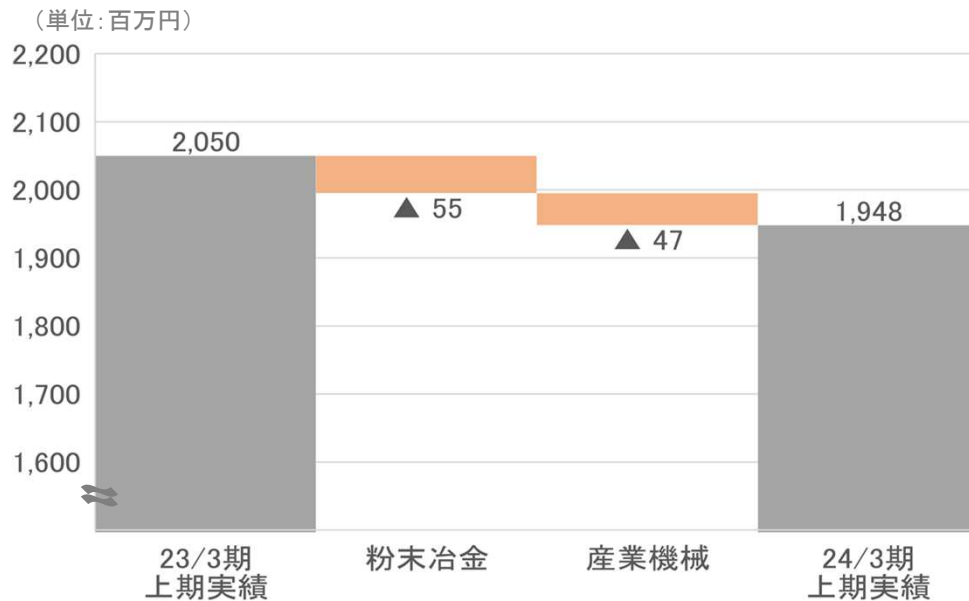
(単位:百万円)



2-5. 産業機械関連事業概況(売上高)

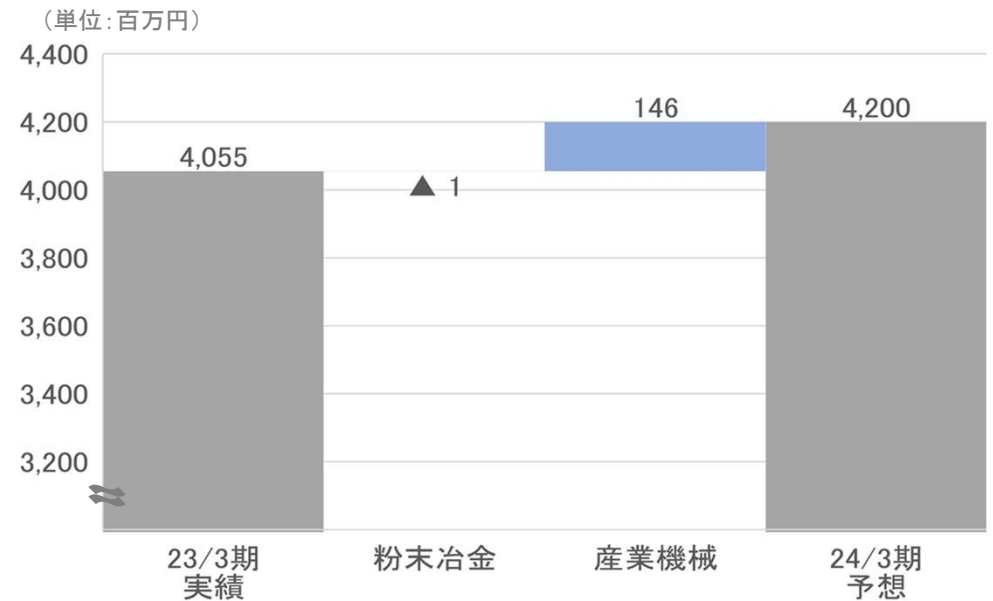
上期

- 粉末冶金は、客先の在庫調整および精密機器向けの売上低調により減収。



通期(予想)

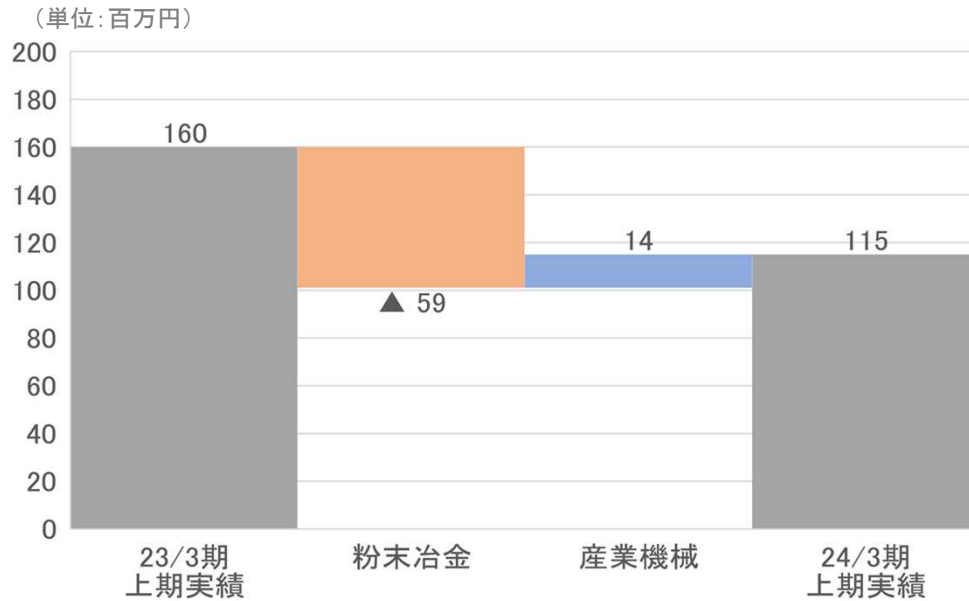
- 粉末冶金は、電力・諸資材等の高騰を受けた価格転嫁を実施見込み。
- 産業機械は、メンテナンスサービスの受注増により増収を見込む。



2-5. 産業機械関連事業概況(営業利益)

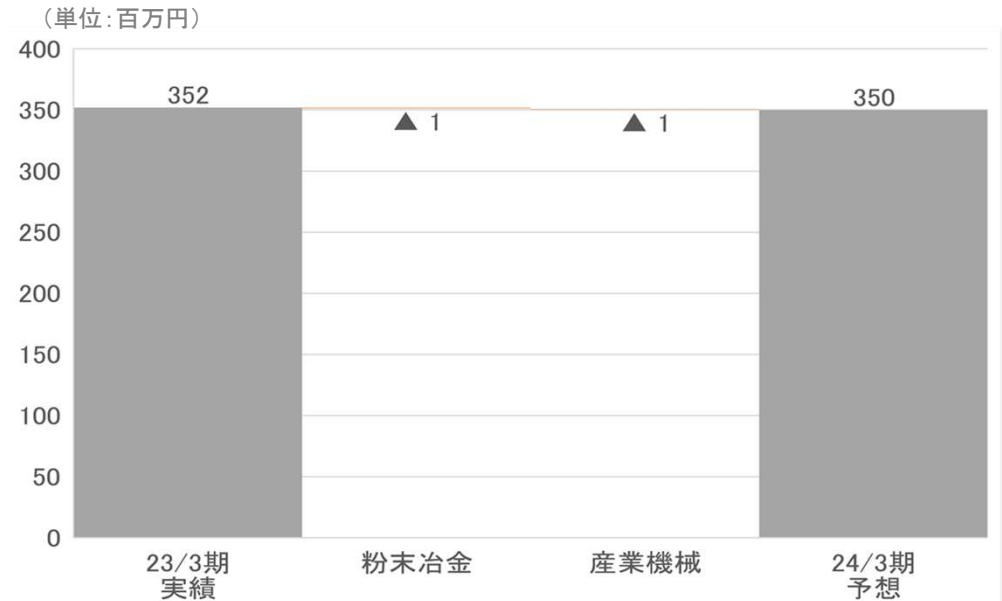
上期

- 粉末冶金は、売上減および想定以上の電力・諸資材等の高騰により減益。



通期(予想)

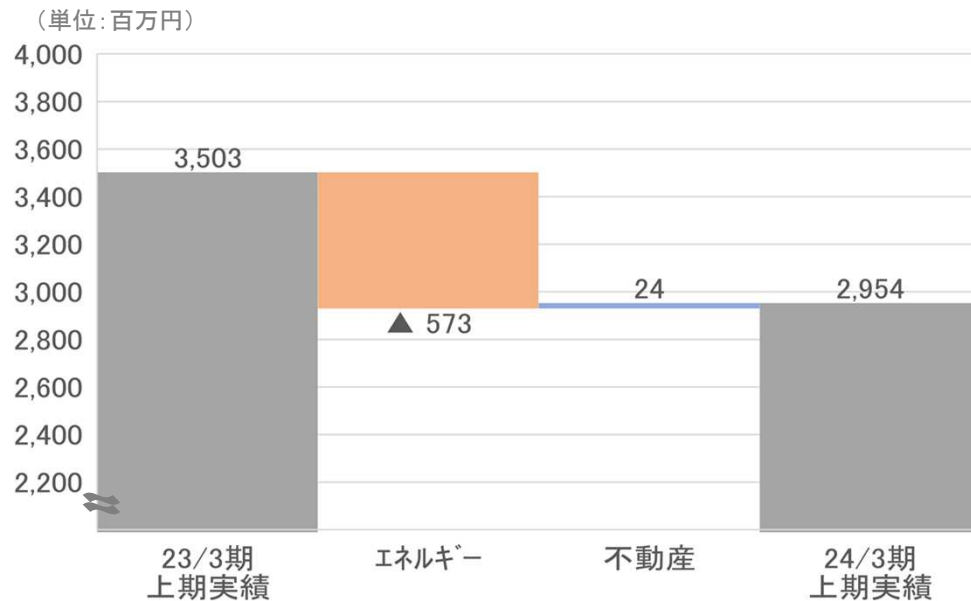
- 粉末冶金は、下期からの価格転嫁の発現および工程見直しによる高収益商品への注力を見込む。



2-6. エネルギー・不動産関連事業概況(売上高)

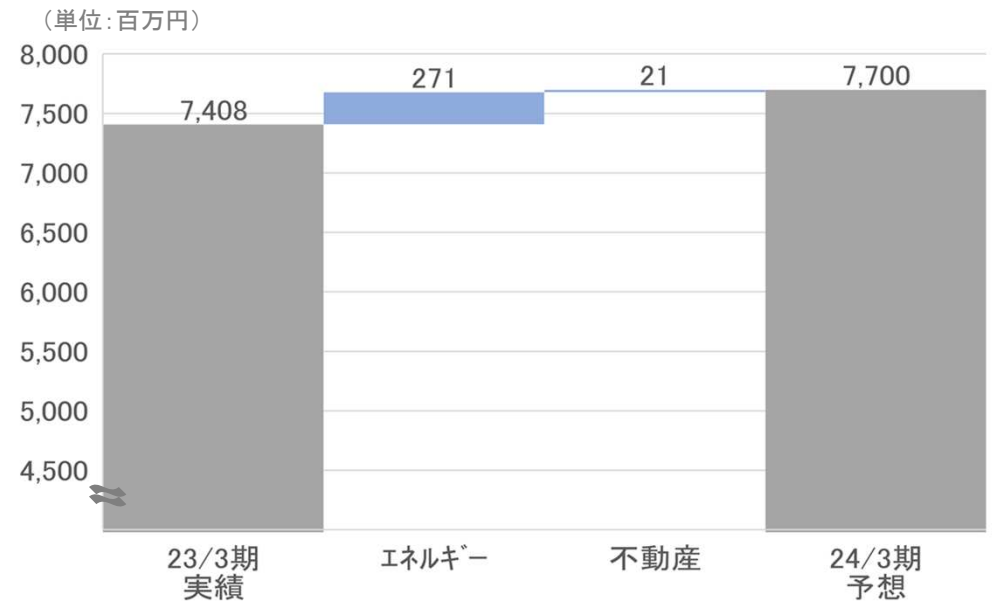
上期

- エネルギー事業では、原油価格変動等に伴う石油・ガスの販売単価減により減収。



通期(予想)

- エネルギー事業では、足許の原油価格を前提に、通期比較では増収を見込む。



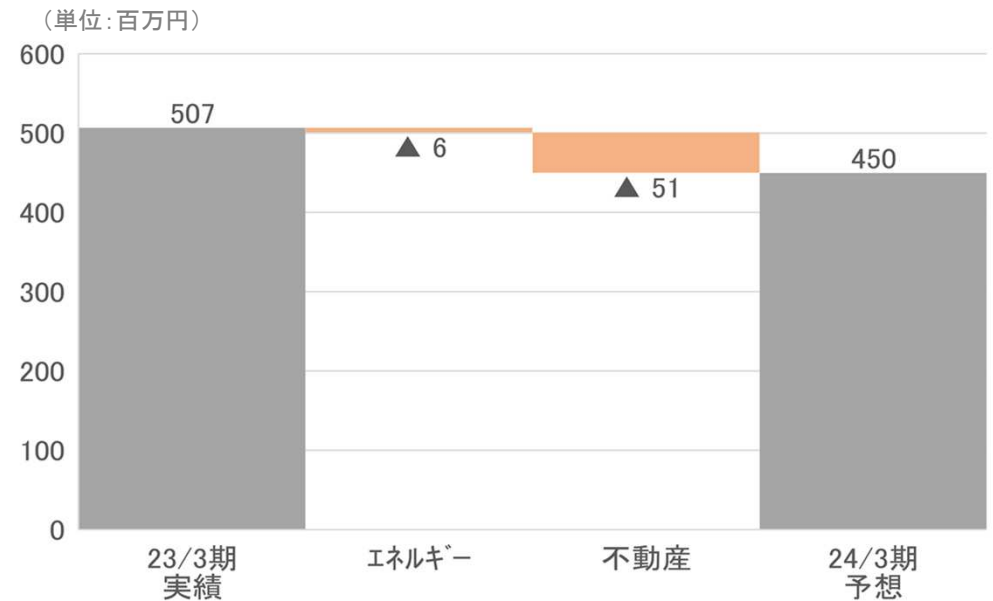
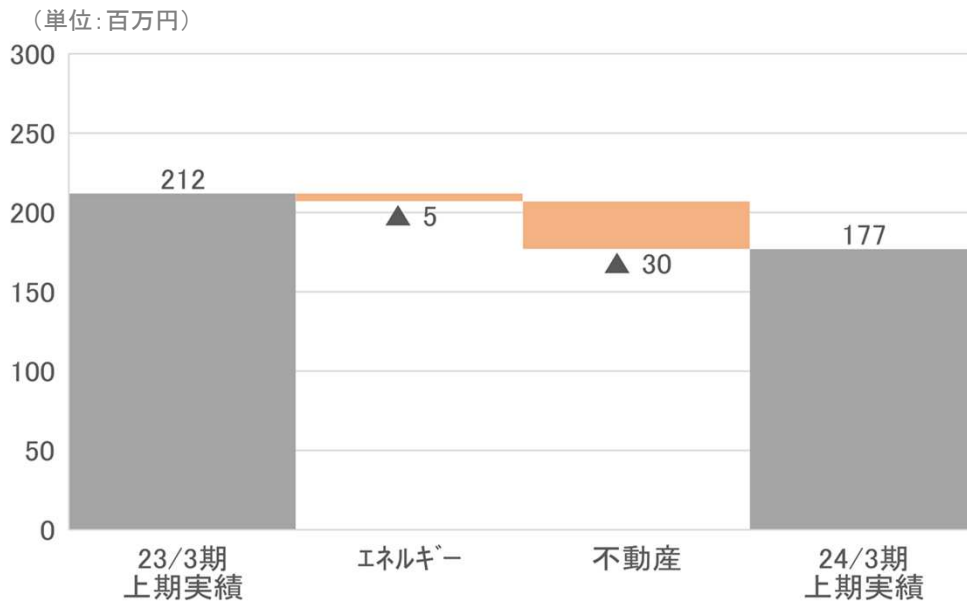
2-6. エネルギー・不動産関連事業概況（営業利益）

上期

- 不動産事業は、商業施設の修繕費増加により減益。

通期（予想）

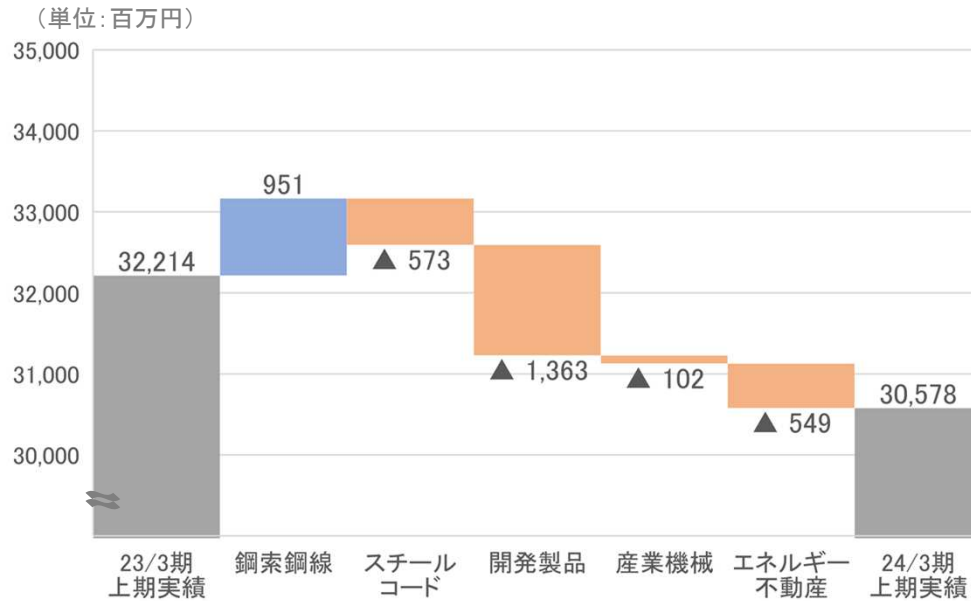
- 上期の状況の継続を見込む。



2-7. セグメント別実績と予想のまとめ(売上高)

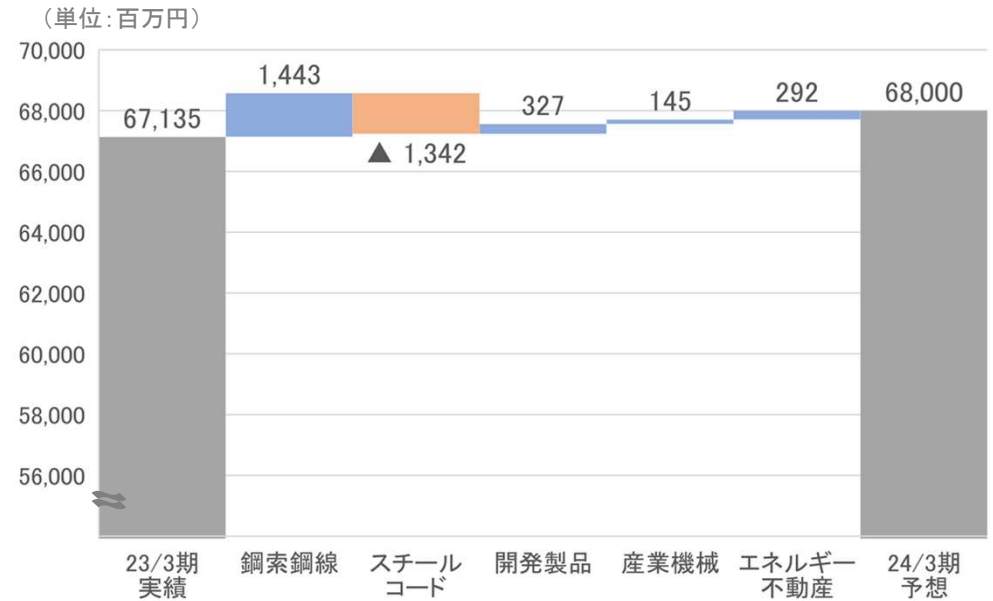
上期

- 鋼索鋼線は、電力・諸資材等の高騰を受けた価格転嫁により増収。
- 開発製品は、国内防災の23年3月期からの反動減および発注遅れにより減収。



通期(予想)

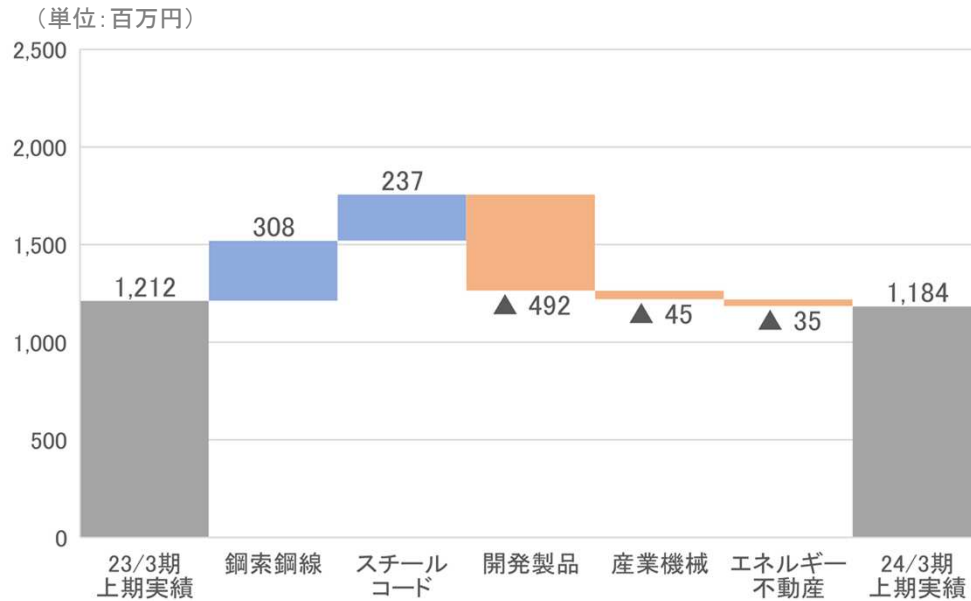
- 鋼索鋼線は、上期の状況の継続を見込む。
- スチールコードは、北米の景気減速影響に加え電力・諸資材等の価格高騰を受けた価格転嫁の影響もあり減収を見込む。



2-7. セグメント別実績と予想のまとめ(営業利益)

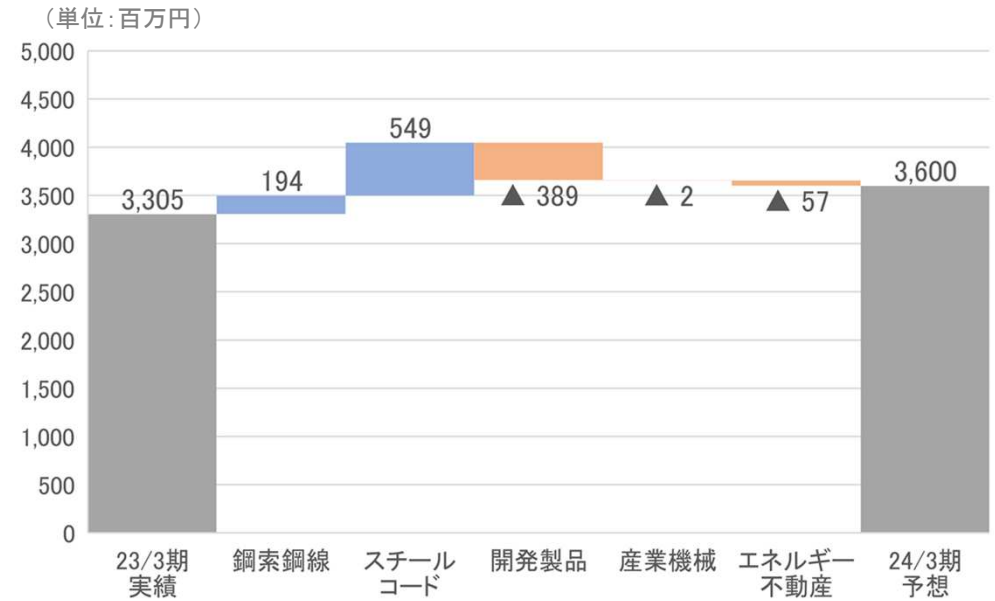
上期

- 鋼索鋼線事業は、価格転嫁によるマージン改善および高付加価値品の増加。
- 開発製品は、高付加価値品を含む国内防災の反動減および発注遅れにより減益。



通期(予想)

- スチールコードは、マージン改善とコスト低減により赤字幅縮小を見込む。
- 開発製品は、国内防災の高付加価値品の剥落影響があり減益を見込む。



1. 24年3月期第2四半期決算・通期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

3-1. 中期経営計画 TRX135の概要(基本コンセプト)

TRX135 = Tokyo Rope Trans(X-)formation at 135th
(創業135年目の改革)

【五つの基本方針】

1. 収益力の再構築
2. 経営資源投入の選択と集中による全事業の黒字化
3. 次期成長を見据えた基盤づくり
4. 風土改革に繋げる内部統制の再構築と積極活用
5. 財務基盤強化

3-1. 中期経営計画 TRX135の概要(中長期ビジョンとの位置づけ)

✿ 経営方針・ビジョン

- 安全・安心な社会資本の整備への貢献は当社の使命であり責務である。
- 事業への取り組みを拡大することで、国際社会が求める社会・環境の持続的発展へ寄与。もって、企業価値の向上に繋げる。

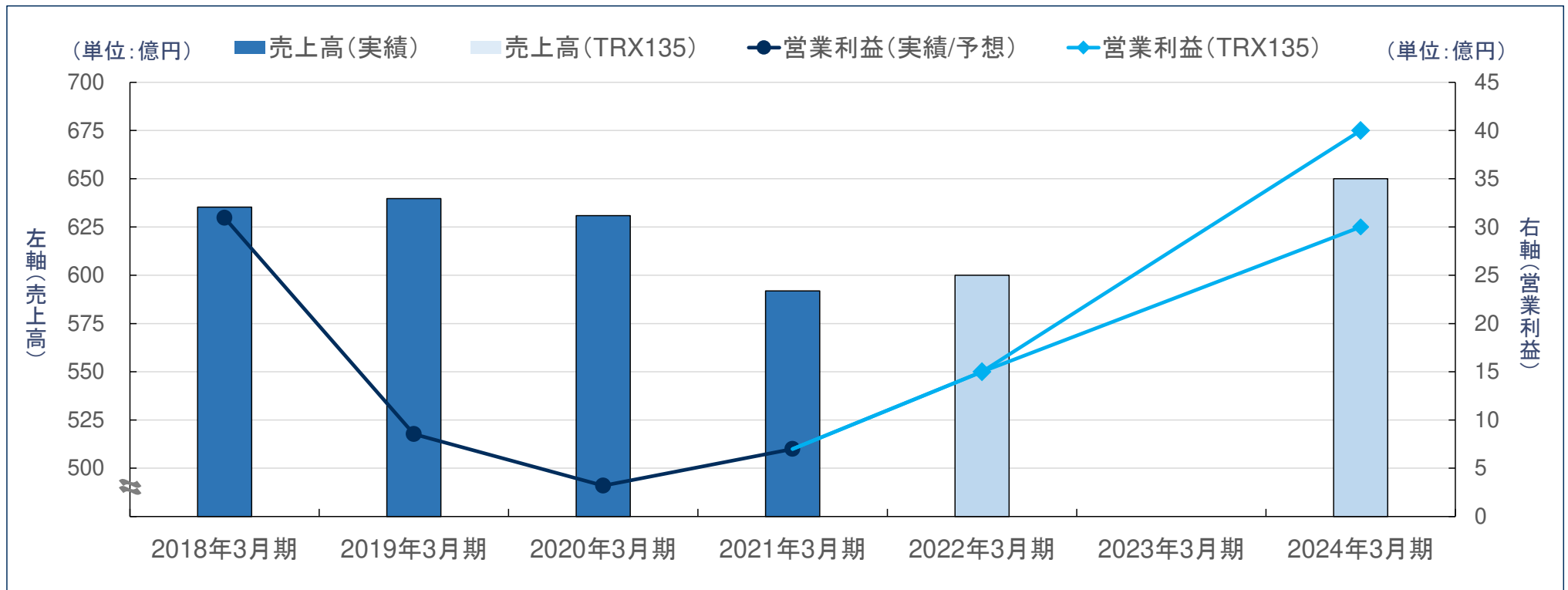
✿ 新中計TRX135の位置づけ

- 近年の事業環境悪化から低迷した業績を、早期に安定的収益水準へ回復。
- 更にその先の発展的成長のための基盤固めの期間。

当社の強みであるトータル・ケーブル・テクノロジーで創造的発展へ

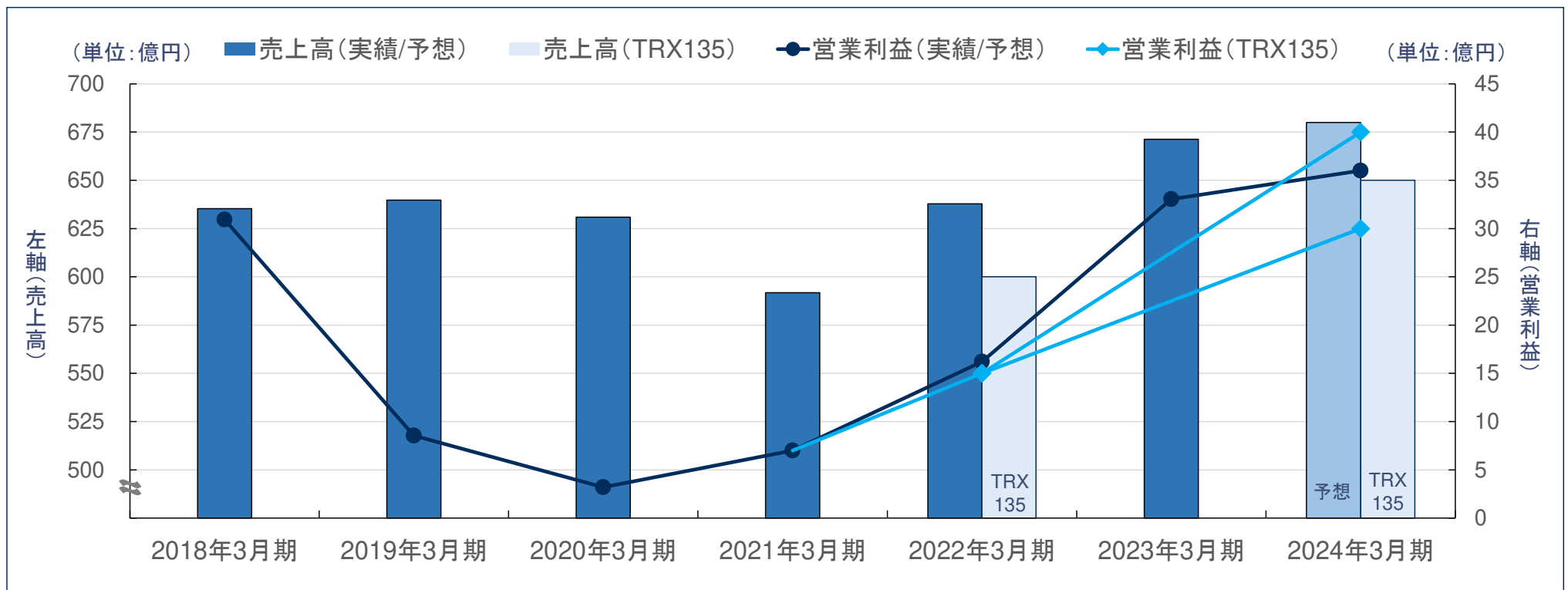
3-1. 中期経営計画 TRX135の概要(連結数値目標)

TRX135の重点課題は収益力の回復、
18年3月期を超える営業利益(30~40億円)を中計最終年度(24年3月期)に目指す。



3-1. 中期経営計画 TRX135と連結数値(実績・予想)の比較

中計最終年(24年3月期)の営業利益目標の最低値(30億円)は23年3月期に達成も、未達の事業もあったことから、24年3月期で重点課題(収益力の回復)を完遂させる。



3-1. 中期経営計画TRX135の進捗確認総括(1/3): 定量面(連結)

	22年3月期 実績	23年3月期 実績	24年3月期	
			当期予想(*1)	中計TRX135
売上高	637億円	671億円	680億円	650億円
営業利益	16億円	33億円	36億円	30～40億円
EBITDA	30億円	59億円	59億円	53～63億円
ROE	5.4%	13.4%	8.0%	8.0%以上
D/Eレシオ	0.98	0.83	0.65	1.0未満
EPS	81.0円/株	234.8円/株	167.6円/株	130円/株以上
総還元性向	24.7%	20.6%	—	30%以上

*1) 24年3月期の予想では、為替の前提を145円/USDとし、法人税等については将来収益の増減を勘案せず実効税率ベースで試算しております。

3-1. 中期経営計画TRX135の進捗確認総括(2/3): 定量面(セグメント別)

	22年3月期 実績	23年3月期 実績	24年3月期	
			当期予想	中計TRX135(*1)
売上高	637億円	671億円	680億円	650億円
鋼索鋼線関連事業	252億円	271億円	286億円	240億円
スチールコード関連事業	86億円	93億円	80億円	100億円
開発製品関連事業	189億円	191億円	195億円	210億円
産業機械関連事業	42億円	40億円	42億円	40億円
エネルギー不動産関連事業	67億円	74億円	77億円	60億円
営業利益	16億円	33億円	36億円	35億円
鋼索鋼線関連事業	11億円	20億円	22億円	11億円
スチールコード関連事業	▲ 8億円	▲ 8億円	▲ 3億円	1億円
開発製品関連事業	2億円	12億円	9億円	15億円
産業機械関連事業	4億円	3億円	3億円	3億円
エネルギー不動産関連事業	6億円	5億円	4億円	5億円

*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-1. 中期経営計画TRX135の進捗確認総括(3/3): 定性面

1. 収益力の再構築

- 連結全体としては達成見込み。

2. 経営資源投入の選択と集中による全事業の黒字化

- スチールコード事業は経営環境の変化もあり通期黒字化は一年遅れとなる見込みも、他事業は黒字化達成見込み。

3. 次期成長を見据えた基盤づくり

- 既存事業の収益力再構築は概ね完了しつつあるので、今後策定予定の次期中期計画において、各事業の成長戦略を打ち出していく。

4. 風土改革に繋げる内部統制の再構築と積極活用

- 本社移転等の職場環境整備や健康経営等に注力し、社員のエンゲージメント向上を推進。サステナビリティ委員会を立ち上げ、SDGs展開を加速化。

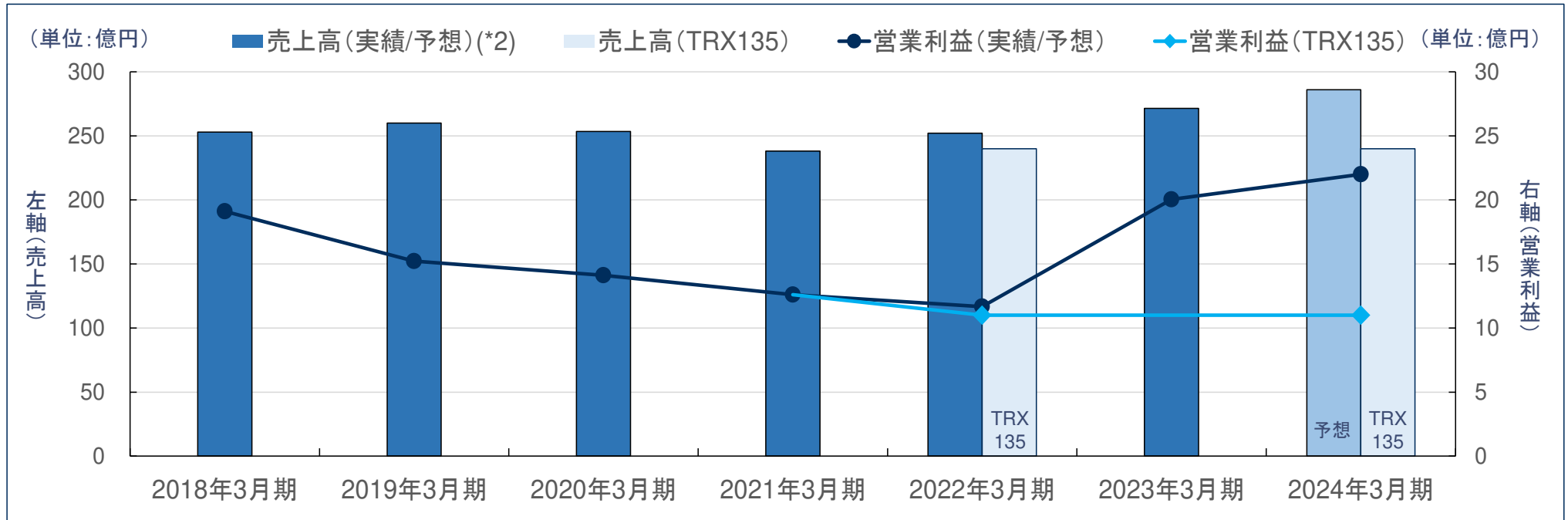
5. 財務基盤強化

- D/Eレシオは最終年度目標1.0未満を前倒し達成。政策保有株の削減実施。

3-2. 事業別進捗状況～鋼索鋼線関連事業(1/2)

❁ 中計の重点課題：収益力・競争力の再構築

❁ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上240億円・営業利益11億円(*1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

*2) 平仄確保の観点から、実績の売上は新会計基準を適用した修正値としている

3-2. 事業別進捗状況～鋼索鋼線関連事業(2/2)

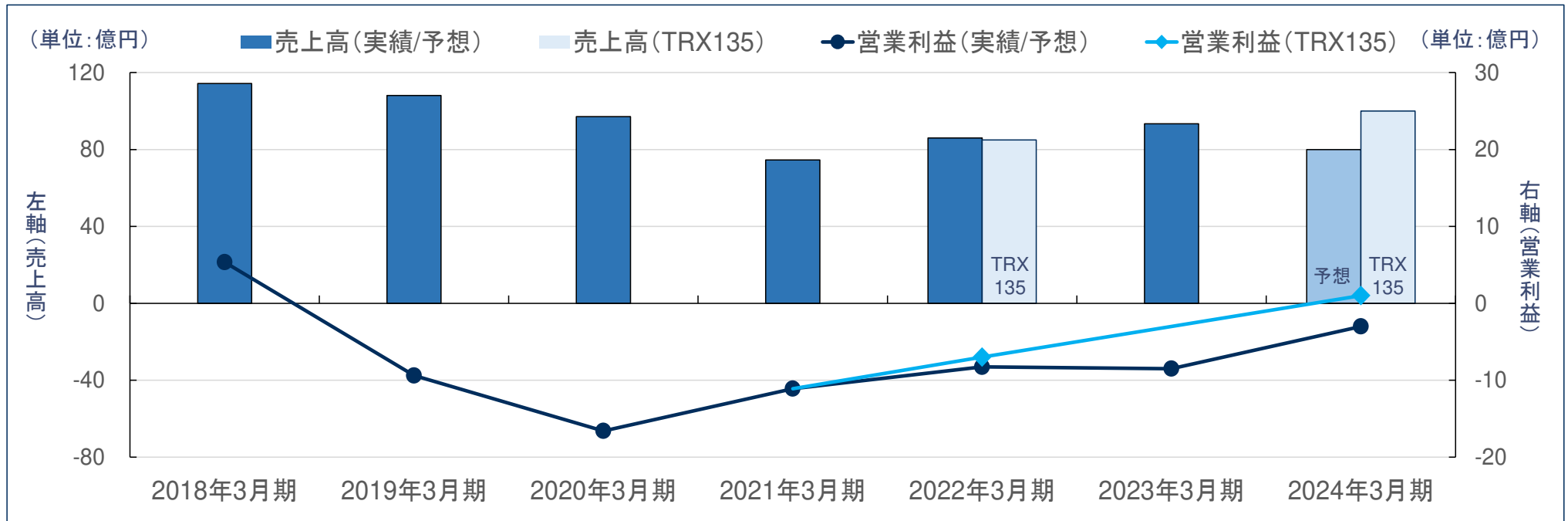
✿ TRX135期間中における主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
品質の向上と適正価格への是正	<ul style="list-style-type: none"> 23年3月期までに段階的な値上げを実施し、適正マージンを確保。 収益力再構築目標(営業利益11億円)を大幅過達。
省エネ・再エネ・デジタル化設備の積極導入	<ul style="list-style-type: none"> 現有設備の省エネ・脱炭素化と並行し、DX等最新技術導入による見える化・自動化・省人化を推進(自家消費型太陽光発電設備、高効率モーターの導入、排熱利用等)。
国内市場における高付加価値品へのポートフォリオ変換	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド需要復活により活況を呈している国内索道需要を確実に捕捉し収益を確保。 工事現場での取り回しが良く安全確保に資する高強度玉掛索の拡販に注力。
ターゲットを絞った海外市場へのワイヤロープ拡販	<ul style="list-style-type: none"> アジア、北米向けロープの拡販進む。 エレベーターロープは中国向け売上減少も、既存顧客以外への拡販を推進中。
洋上風力発電市場への積極的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 官民学で構成する浮体式産業戦略検討会に参画。 浮体系留索の第三者認証取得に向けて活動中。 係留索製造設備の増強を計画。

3-2. 事業別進捗状況～スチールコード関連事業(1/2)

❁ 中計の重点課題：セグメント黒字化

❁ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上100億円・営業利益1億円^(*)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～スチールコード関連事業(2/2)

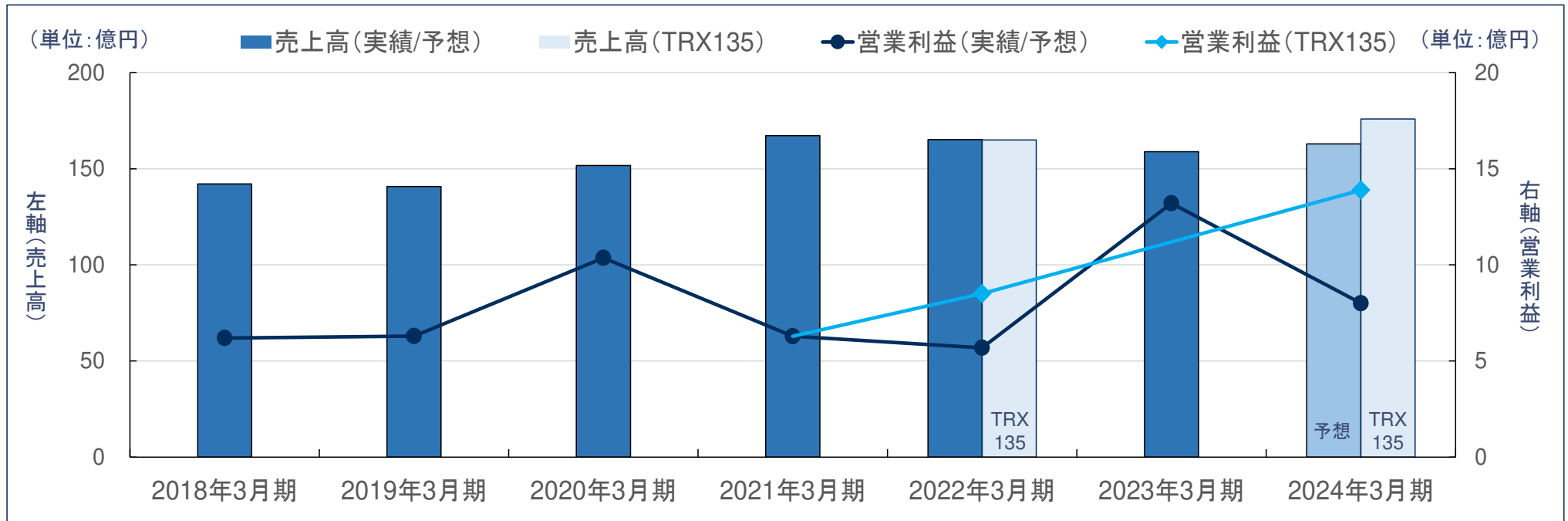
✿ TRX135期間中における主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
原材料価格と製品価格との適正スプレッドの確保	<ul style="list-style-type: none"> 諸資材および高止まりしているエネルギー(電力)コストの製品価格転嫁を段階的に実施。値上げ効果を取り込んで24年3月期第4四半期で黒字化見込み。25年3月期での通期黒字を目指す。
新規導入設備による生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 23年3月期に導入を完了した新設備は当初計画通りの生産性改善効果を発揮。
日本製鉄(株)殿とのコラボレーション強化	<ul style="list-style-type: none"> 物流費削減を目的とした釜石港の活用を実施。 操業指標の更なる改善に向けた技術交流を継続。
ポストTRX135に向けた新製品開発の探索と戦略投資プランの検討・策定	<ul style="list-style-type: none"> EVシフト対応のタイヤコード開発を推進。 サステナブル材料の採用、カーボンニュートラルに資するタイヤコード開発について検討を開始。

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちエンジニアリング製品)(1/2)

❁ 中計の重点課題：差別化による競争優位性維持

❁ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上176億円・営業利益14億円(*1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちエンジニアリング製品)(2/2)

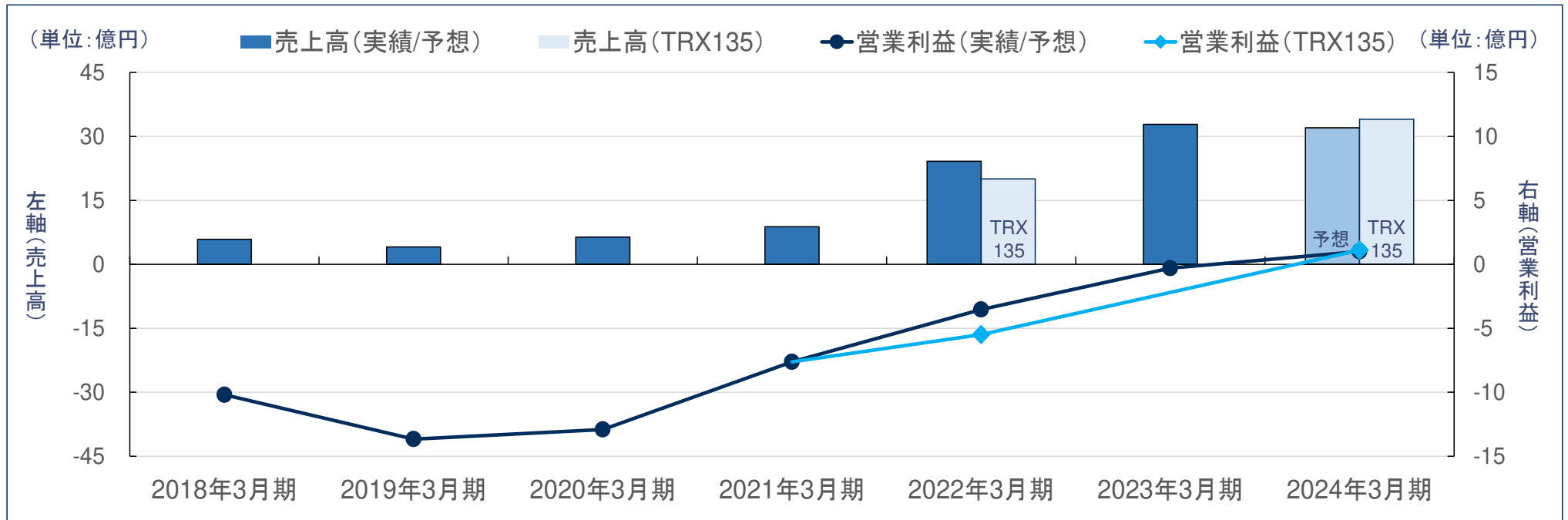
✿ TRX135期間中における主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
国土強靱化政策のもと、各市場ニーズを踏まえた防災製品開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・ アズガードフェンス(崩壊土砂防護柵)、TSガードフェンス(落石防護柵)、GF式鉄筋挿入工(表層崩壊対策)、ハイアーネット(落石防護網)等を開発および販売開始。
ターゲットの選択と集中による海外防災事業の黒字化	<ul style="list-style-type: none"> ・ カザフスタン法人の売却完了。モスクワ法人の清算終了。キルギス法人の清算手続中。 ・ フィリピンを中心にアジア・オセアニア地域の開拓を模索中。
世界展開を目指し、ケーブルの高強度化による橋梁事業の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーマニア・ブレイラ橋にケーブルワイヤを納入。 ・ 国内では診断、補修・取替事業を強化し、新設案件に頼らない事業構造転換を実施中。
全磁束法による橋梁ケーブル健全性診断及び補修・取替需要の取込み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 21年3月期と比較して全磁束法による診断事業の売上高が倍増。 ・ 国内外で引き合い増加中。

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちCFCC製品)(1/2)

❁ 中計の重点課題：CFCC事業単独での黒字化

❁ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上34億円・営業利益1億円^(*)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(うちCFCC製品)(2/2)

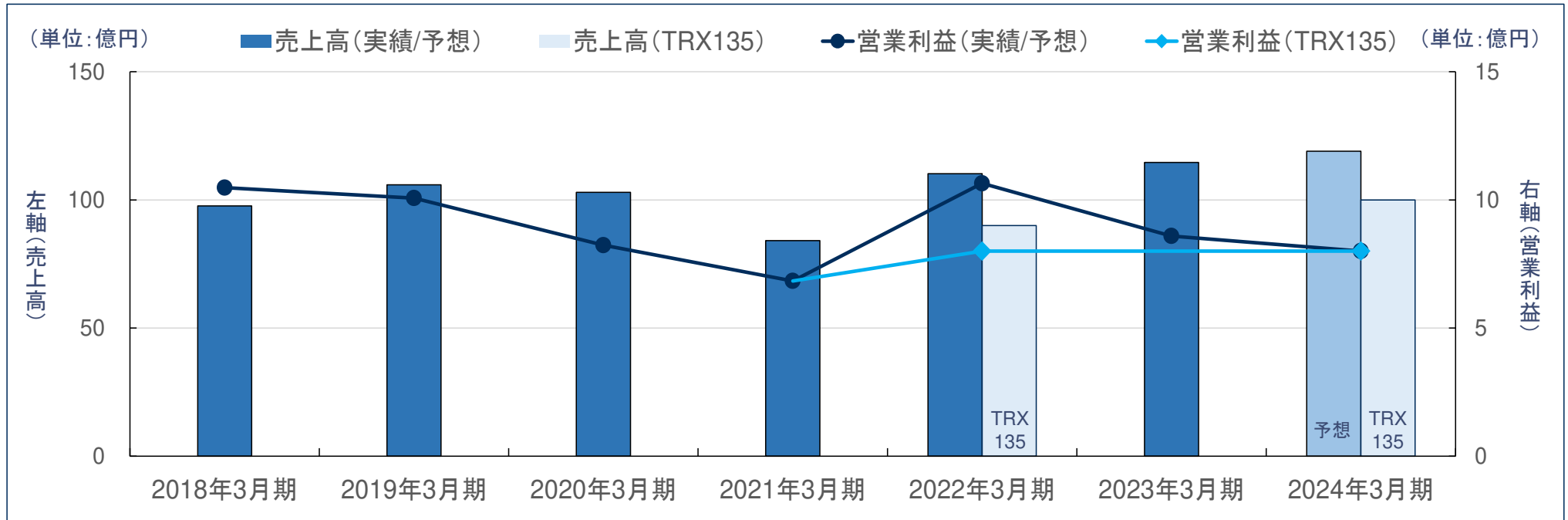
✿ TRX135期間中における主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
時間軸を踏まえた遅滞なき事業性の検証と戦略見直し	<ul style="list-style-type: none"> 国内CFCC事業および北米子会社の両事業において通期黒字化を達成見込み。
市場の選択と集中	<ul style="list-style-type: none"> 土木分野を中心に開拓を強化。 国内ではCFCCスラブ(CFCCを緊張材でを使用したプレキャストPC床版)の初採用が決定。
操業改善による利益率向上	<ul style="list-style-type: none"> 国内外とも案件の積み上がりによる安定稼働、経費削減により利益率改善。
土木建築製品における受注済北米案件の確実な完遂	<ul style="list-style-type: none"> 受注済北米案件は施工遅延の影響により完遂ならずも、北米工場の操業は順調(生産・納入は25年3月期前半まで継続予定)。 補修・新設含め引続き北米橋梁案件の獲得が見込まれる。
ACFRの架線容易性/安全性による競合製品との差別化	<ul style="list-style-type: none"> 当社が架線指導を行い2018年以降、1,180kmの無事故架線を継続中。競合製品との差別化の目玉として展開。

3-2. 事業別進捗状況～産業機械関連・エネルギー不動産関連事業(1/2)

❁ 中計の重点課題：多彩な独自製品の更なる強化

❁ 中計における最終年度の売上・営業利益：売上100億円・営業利益8億円^(*)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-2. 事業別進捗状況～産業機械関連・エネルギー不動産関連事業(2/2)

✿ TRX135期間中における主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
自社開発した超硬新素材の多様な展開	<ul style="list-style-type: none"> 高耐久新素材(SCPT合金)の海外特許出願完了。自動車産業を中心とするBtoB分野で徐々に浸透している。 刃物用新素材(KS111)が超硬包丁「KISEKI:」©に採用。
計量・包装分野における自動化・省人化、整備業務の外注化ニーズの捕捉	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の採用難・熟練工の退職を背景に自動化ニーズに対応した製品への引き合いは増加傾向にあり、活性化の兆しがある。 整備業務の受託も堅調に推移。
再生可能エネルギーの更なる普及と歩調を合わせた事業展開	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーでの電力販売を推進。 石油からガスへの燃料転換によるCO2削減を推進。

3-3. 全社施策の進捗状況～組織力強化のための重点戦略(1/2)

✿ 中計の重点課題：組織風土改革

✿ 基本方針：

① 内部統制の再構築と活用

- ・ 風通しの良い組織形成に資する内部統制の再構築と活用
- ・ 各種ルールの整備と公正な運用を通じた従業員が安心して活躍できる組織づくり

② DXによる業務改革

- ・ DX化による従来手法からの業務改革

③ 職場環境の再整備

- ・ 従業員のスキル向上とモチベーションアップの実現
- ・ 多様な働き方と社員の健康に配慮した職場づくり

3-3. 全社施策の進捗状況～組織力強化のための重点戦略(2/2)

✿ TRX135期間中における主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
ピープルサーベイ(従業員意識調査)の定期実施と改善の促進	<ul style="list-style-type: none"> 国内全社を対象としたピープルサーベイを継続実施。 調査結果から課題を抽出し、改善施策を実行中。
各種研修(コンプライアンス関連、自己啓発等)の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント撲滅のための啓発活動として研修を拡充。 集団研修の拡充に加え、選択型研修や個別研修を実施した。今後、適宜拡充を予定。
パッケージソフトの導入を軸とした業務改革と外部知見の活用	<ul style="list-style-type: none"> 一部事業において基幹システムの入れ替えを完了し、更なるペーパーレス化と内部統制の向上を実現。 他部門でも更なるペーパーレス化に向け目下取り組み中。
チャレンジを評価する制度の再整備	<ul style="list-style-type: none"> 表彰制度を改定して従業員のチャレンジと成長を後押し。 今期中に社内ベンチャー制度なども検討中。
在宅勤務の普及と従業員の健康を踏まえたIT・オフィス環境の再整備	<ul style="list-style-type: none"> 本社事務所移転を機にサテライトオフィスやIT環境を整備してテレワークを定着化。 健康経営優良法人認定取得を計画。

3-4. SDGs・ESGの取組み～マテリアリティ～

23年5月に「東京製綱グループの5つのマテリアリティ(重要課題)」を公表いたしました。各マテリアリティに対応するKPIを設定してサステナビリティへの取り組みを加速します。

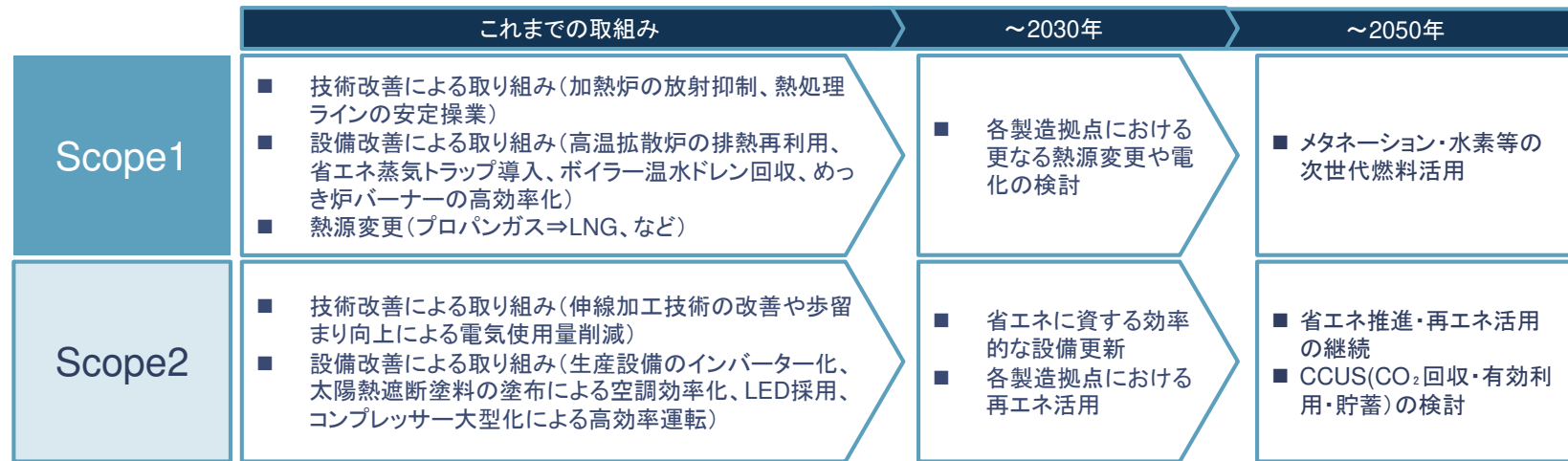
マテリアリティ(重要課題)	
<p>自然環境と共存する -持続可能な環境の実現-</p>	     
<p>お客様・お取引先・地域の皆様と共に栄える -社会ニーズに対する高度な製品・ソリューションの提供-</p>	    
<p>従業員と共に栄える -従業員の健康確保と働きがいのある職場環境づくり-</p>	    
<p>すべての人と共存する -人権の尊重-</p>	 
<p>共に栄えるために義(規律・規範・責任)に従う -ガバナンス・リスク管理の徹底-</p>	 

3-4. SDGs・ESGの取組み～TCFD対応～

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同を23年6月に表明し、TCFD提言に基づく情報開示を決定しました。

東京製綱グループのCO₂排出量削減目標

2030年度 目標	2050年度 目標
Scope1+Scope2で▲40%(2013年度対比)	Scope1+Scope2でカーボンニュートラル実現



3-4. SDGs・ESGの取組み～洋上風力発電関連製品～

浮体式洋上風力発電向けの係留ロープを開発し、実海域試験に投入済み。
洋上風力の産業競争力強化に向けた浮体式産業戦略検討会にも参画。

浮体式洋上風力用係留ロープ



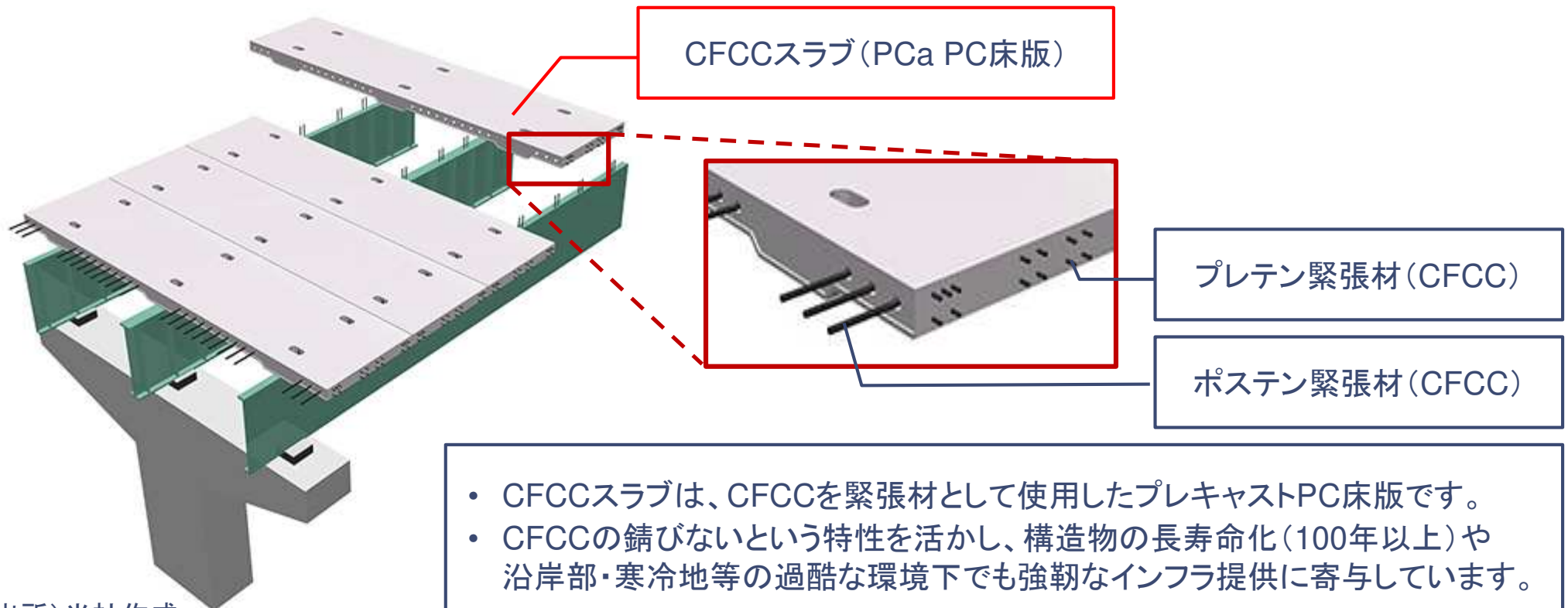
- 実大規模係留ロープの性能評価に着手しました。
- 24年3月期中に直径φ212mmの浮体係留用ポリエステル製ロープの評価を海外試験機関にて行うため、ロープの製作を開始しました。
- この評価結果を踏まえ、洋上風力向け係留索として国際的な第三者認証の取得につなげます。

出所) 当社撮影

3-4. SDGs・ESGの取組み～土木向けCFCC製品～

CFCCを緊張材に使用した道路橋床板(CFCCスラブ)の開発が進行中。

CFCCスラブの概要とCFCCの利用箇所



出所) 当社作成

3-4. SDGs・ESGの取組み～バイオマス発電関連設備～

バイオマス発電で発生する飛灰の充填設備を製作・出荷。

バイオマス発電用 飛灰充填設備



- 福島復興事業において、放射線汚染物質を除染、貯蔵処理、再利用をする過程で発生する焼却灰を自動充填する装置を製造・納入してきました。
- この実績を評価され、バイオマス発電設備への採用が決定しました。

出所) 当社撮影

3-5. 全社施策の進捗状況～ 財務・配当政策

★ 財務政策

- コーポレートガバナンスの観点から、政策保有株式の見直し・縮減を継続する
- 中計目標は既に達成も、有利子負債の圧縮と財務基盤の強化を継続する

★ 株主還元・配当政策

- 安定配当を第一にしつつも、収益力の強化により、年度ごとの着実な増配を目指す
- TRX135の最終年度にあたり、総還元性向30%以上の実現を目指す

	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期(予想)
配当実績(予想)	—	20円/株	35円/株	40円/株

(ご注意)

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込み、その他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。